

# 予期せぬ妊娠に対する支援に関する研修



健やか親子21

目的：予期せぬ妊娠に対する相談・支援の基本的な知識や、関係機関が連携して行う支援の必要性、先進的な自治体の取り組み事例等を学び、それを女性健康支援センター業務の委託先等へ伝達し、相談・支援の充実や関係機関との連携促進を目指す。

対象：女性健康支援センターや妊娠SOSを実施している自治体及びその業務について自治体の委託を受けている団体等の担当者

※本資料は当日参加ができなかった方にも講義内容が理解しやすいように、実際の講義と当日配布した資料を元に事務局において作成した資料となります。詳しい内容は、特設HP内の終了報告に掲載の資料をご覧ください。

## 1. 医療機関での予期せぬ妊娠の現状とその対応

### ★妊娠の背景

・希望した妊娠、予期しない妊娠、継続を希望しない妊娠、継続が困難な妊娠、誰にも相談できない妊娠、中絶を選択できない状況に置かれた妊娠

→妊娠に対する思いは時間とともに変化する可能性もある

・妊娠の継続について悩んでいる場合は、妊娠を継続した場合としなかった場合に起こり得ることに関する情報が提供され、妊婦本人が意思決定できるようなケアが重要である

・人工妊娠中絶と感情

自己肯定...学生なのでまだ産めない、胎児はまだ人の形をしていない

自己否定...私が全て悪い、私は罪な女だ

自己肯定の背後に自己否定の感情があり、葛藤を繰り返している

人工妊娠中絶後の対応における留意点

・心理...ほっとした、胎児へ罪悪感、次回の妊娠に対する不安、パートナーとの関係

→まずは本人の気持ちを確認する\*本人と親の気持ちが対立している場合は中立な立場での対応を

### ★妊産婦への切れ目ない支援

○妊産婦のストレス

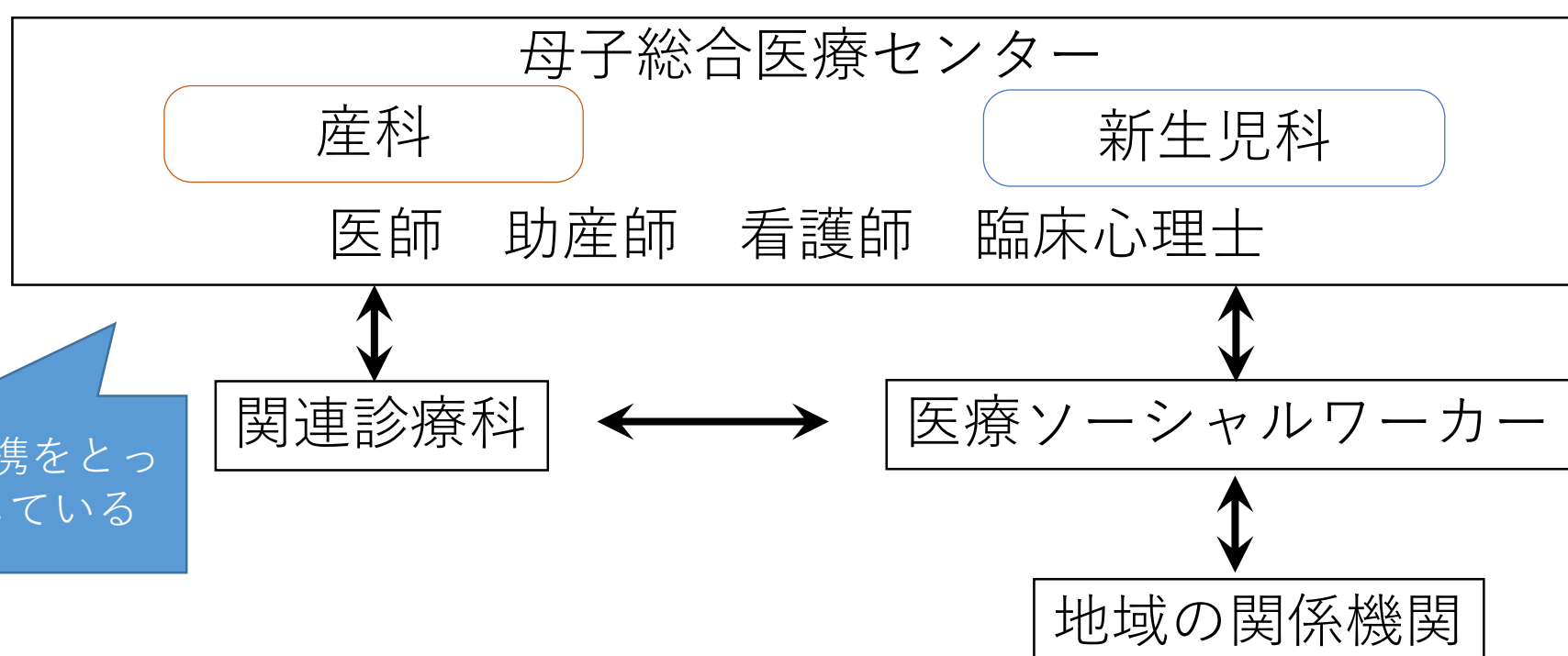
・ストレスや不安を感じている妊婦は少なく、抑うつ状態は全妊婦の約15%に認められる

・妊婦の不安の強さは子どもの発達に影響を及ぼす（多動、注意障害、情緒障害、等々）

○特定妊婦

若年妊婦、妊婦健診未受診または受診回数の少ない妊婦、すでに養育の問題がある妊婦、支援者がいない妊婦、妊娠の自覚がない、出産の準備をしていない妊婦、こころの問題がある妊婦、知的な課題がある妊婦、経済的に困窮している妊婦...→多職種による連携が必要

東京女子医科大学病院では...



妊娠・出産は人生の大きなライフイベント  
多職種の連携による支援体制の構築が求められる

## 2. 相談現場から見えてくる相談者の背景

### ★妊娠・出産のパターン

- ・計画的妊娠・出産
- ・できたらできたで出産

隠さない  
おめでたいこと

- ・思いがけない妊娠・出産  
若年すぎる  
知的問題、精神的・身体的問題  
学業・仕事がある  
相手との関係がなくなってしまった等

おめでたくないが  
隠さない

- ・他者に知られたくない妊娠・出産  
社会的に受け入れられない関係  
宗教的背景  
親や学校、職場等の所属する場に  
知られたくない 等

なかったことにしたい

望まない妊娠/計画していない妊娠

↓  
予期していない妊娠/計画していない妊娠 (=思いがけない)

厚生労働省による児童虐待死亡事例の検証報告(第13次)から、**より客観的、中立的に事例をとらえ検討を行うため**に変更。それまでは「望まない妊娠/計画していない妊娠」。

### ★思いがけない妊娠と望まない妊娠

- ・女性の妊娠は、待ち望んだ妊娠と思いがけない妊娠のどちらか
- ・思いがけない妊娠は、出産を待ち望む妊娠へと変化していく可能性
- ・妊娠期にどんな支援を受けたかにより、その後の女性の生き方と子どもの未来は大きく左右される
- ・生後0日死亡は、誰にも知られたくない妊娠だったというのが世界的な認識
- ・0日死亡の根本的な解決のためには、まず匿名でも相談できる妊娠葛藤相談窓口が必要

### ★妊娠の受け止めと必要な対応

- ・妊娠したかもしれない...様々な対応相談者・機関に相談
- ・思いがけない・予期しない妊娠...子育て世代包括支援センターでの支援が必要
- ・他者に知られたくない妊娠...匿名で相談できる機関が必要

### ★予期せぬ妊娠をした方がいるかもしれない

○妊娠届出がほとんど初めての公的支援への接点

- ・おまたせしました。妊娠届出ありがとうございます(「おめでとう」でうまくいかないケースも)
- ・足りないところを指摘指導する姿勢でなくまずは自己紹介。自分はどの職種で何をする者であるか
- ・話はあくまで妊婦に目線を合わせ、妊婦にする
- ・アンケートをなぞるばかりでなく、「何か困っていることはありませんか」「何かあったら相談して下さいね」ではなく、具体的に心身、胎児、夫婦関係、経済状況、医療機関、支援者などを例示

○生育歴、これまでの生活の把握は必須

- ・小さい頃はどんな子どもだったんでしょう。小さい頃でよく覚えていることはどんなことでしょうか
- ・何でもいいんですが、働いたことはありますか

### ★大切なつなぎとフォロー

- ・地域の生活者からの相談であり、にんしんSOSがカバーできる部分は生活の一部
- ・公的機関は地域住民の健康・生活に責任がある
- ・相談内容により、公的機関、特に家庭訪問できる職種の紹介とつなぎを行う
- ・つなぎは、公的機関の支援者の氏名は少なくとも伝える
- ・相談者との関係の中で住所・氏名が把握できればベター
- ・相談に対し情報提供を行っても、行動に移せたかどうか心配な場合は、電話では電話番号を聞き取り(困難な場合が多いが)、メールでは、その後どうなったかのフォローが重要
- ・I message (アイメッセージ。「私」を主語として伝えるメッセージ。「あなた」を主語は非難、命令等に受け取られる)で、相談内容と相談対応者の心配の程度で、相談者を追い詰めすぎない適切な間隔でフォローする

## ディスカッション

### 【仮想事例】

「こんなことで妊娠するんでしょうか」と電話がかかってきた。内容は「性器を挿入された覚えはないが、生理がずっと来ていない。母子家庭で掛け持ちで仕事をしている。子どもは1歳で保育所。どうしたらよいかわからない」ということであった。

上記について、①電話対応で気をつけるポイント②事例の抱える課題は何か③どのような支援を行うか④どのような機関にどのような「つなぎ」を行うか⑤フォローはどのように行うかを検討、それを全体で共有

#### ①電話対応で気をつけるポイント

- ・ねぎらい、傾聴
- ・心配な気持ちを共有し、お母さんのペースで沈黙を待ち、質問しすぎない、時間がなければ次の約束を取り付ける
- ・具体的に話してもらえよう、相手に負担にならない範囲で
- ・名乗る、相談してくれてありがとう
- ・相談者の背景がわからないので決めつけない
- ・相手に話をしてもらう
- ・隣にパートナーがいるかもしれないため、本当のことを電話で言えるかどうか

#### ②事例の抱える課題は何か

- ・生活保護の対象か
- ・身体に対しての知識が少ないのではないか、精神疾患があるかもしれない
- ・相談できる相手がいない
- ・何を心配しているのか
- ・男性との関係はどのようなのか、性的な暴力なのか
- ・妊娠していたら今後の生活が成り立っていないのか

#### ③どのような支援を行うか

- ・背景を理解するために親身に聞く、孤立させない
- ・就労支援も必要かもしれない
- ・妊娠検査薬の情報提供

#### ④どのような機関にどのような「つなぎ」を行うか

- ・健診を受けていてすでにつながっているところがあればつなげ直す
- ・保健センター、医療機関、児相、性的暴力であればワンストップ支援センター、福祉部門
- ・つながらなかった場合の窓口紹介なども

#### ⑤フォローはどのように行うか

- ・つなげた機関がフォローにつながっているか後からしっかり確認する
- ・タイミングを待って相談者に連絡を取ってみる

### 【総括】

★関係性が作れたら、電話番号を覚えてもらう。どこからかけているのか、近くに住んでいるのかも聞く。

★何か生活が楽になることをしたいことを伝え、電話番号を覚えてもらえるような会話で、教えてくれたらメリットとがあると思わせる。

(例：「これからこういうことを調べるから、掛け直させて」、「妊娠していないか検査薬を買える場所を教えてるから」「この町だと〇〇で買えるんだけど、どこらへんに今いるのかな」等)

★私（相談を受ける側）が心配していることを伝える。

(例：「生活が困っているということだけど、掛け持ちの中でありがとう。仕事の合間なのかな」「夜はお子さん預けられないよね、お母さんの身体が心配」等)

★電話は簡単な内容から始まることが多い、この人だったら私のことしゃべってもいいかなと思わせるように。